

平成28年度 長野県下伊那農業高等学校 学校評価表(年度末評価)

＜A:達成できた B:概ね達成できた C:不十分であった＞

評価項目	評価の観点	評価(記述)	評価
農業教育を充実させるための取り組み	・農業の必要性や素晴らしさを生徒に伝えることができたか。	○農業や関連分野の学習に生き生きと取り組んでおり、概ね達成されている。	A
	・エコロジカル・アグリハイスクール宣言にみる5つのアクション、10の具体的実践について新たな取り組みができたか。	○毎年、少しずつ活動内容を工夫しながら取組が行われ充実してきている。	A
資格取得を充実するための取り組み	・生徒が資格取得に興味関心を示し、生徒一人ひとりが二種類以上の資格取得に取り組むことができるように指導することができたか。	○毒劇物・危険物甲種など難易度の高い資格に挑戦するなど、意欲的に取り組む生徒が増えている。	A
	・時間外の講習会や長期休業中の補習を充実させ、生徒にとって満足いく成果が得られたか。	○時間外の講習会、休日の補習等をとおして、難易度の高い資格の合格率が上昇するなど、目標を達成することができた。	A
学習意欲を向上させるための取り組み	・生徒の学習意欲を向上させるため、校外実習や外部講師による授業など、授業内容を工夫し実践することができたか。	○年間を通じて、各学科の特徴を生かした校外実習を、計画的・系統的に行うことができた。 ○外部の専門家や社会人講師による授業も各学科の特色を生かして実施することができた。	A
	・生徒にとって分かりやすい授業を実践することができたか。	○実験・実習やグループ学習、視聴覚教材やワークシート等の活用をとおして、分かりやすい授業を実践することができた。	B
	また、理解できない生徒に対して事後指導がしっかりできたか。 ・年間を通して曜日のバランスを考え、授業時間数を確保することができたか。	また、補習等をとおして、生徒一人ひとりの理解が進むように指導することができた。生徒は授業に概ね満足している。 ○短縮授業等を極力避けるなど、概ね確保することができた。	B
進路希望を実現させるための取り組み	・本校の生徒の実態に合った計画的指導ができたか。	○概ね本校の生徒の実態に基づいた進路指導が出来ている。	B
	・進路が多様化する生徒に対し情報提供が十分かつ的確にできたか。	○就職希望の生徒の学科以外の実習については、学科実習と重ねて行うことは難しい。	B
	・進学希望者に対する教科補習が十分できたか。	○概ね支援することができた。	B
	・生徒が希望する進路を実現することができたか。	○全体的には達成することができた。就職に関して、全体の求人数は増えてきたが、製造業が主で、事務系の求人数は厳しい状況である。	A
地域を理解し、地域との連携を深めるための取り組み	・生徒が意欲的に参加し、活動した取り組みであったか。	○アグリ研究班、食品科学班を中心に、積極的に地域に出て活動を行うことができた。	A
	・地域の文化を取り入れた内容の活動を行い、地域文化を理解させることができたか。	○信州学の取組を各学科において行うことができた。	A
	・実施した取り組みが、相手や地域から理解・評価を得られたか。	○地域交流や地域貢献等の教育活動に対する本校への期待は大きく、高い評価が得られている。	A
基本的な生活習慣を確立するための取り組み	・「身だしなみ」をきちんとする指導の実践ができたか。	○特に不審者被害を防止するため、スカートの丈を中心に身だしなみの徹底を図ってきた。スカート丈については、不十分なところも残るが、日常の指導はしっかりできた。始業式・終業式・試験期間中の身だしなみ検査及び日常生活での指導を徹底することで、盗撮被害については、昨年の7件から0件に減少した。今後も継続指導が重要であるとする。	B
	・問題行動を未然に防ぐ予防的指導ができたか。	○問題行動等に丁寧に対応して学校の秩序を保つと共に、注意喚起することで、問題行動等を未然に防止することができた。	B
	・集会の時は迅速に集合・整列し、整然とした集会を実施することができたか。	○課題のある生徒も存在するが、学校全体として整然とした集会が実施出来ている。	A
	・気持ちよい挨拶を習慣づけることができたか。	○昨年と比べると、出来ていないところもあるが、概ね良く出来ている。来校者の評価も良い。	B
	・校内外の清掃活動を通して、ゴミの分別を徹底させ、リサイクルの必要性について認識させることができたか。	○農業実習の片付けの習慣など、良くできている。	B
	・時間のけじめをつけさせ、休み時間の有効活用によるスムーズな授業開始や遅刻をなくす指導ができたか。	○昨年と比べると、やや不十分なところもあるが、大半の生徒はしっかりできている。	B
	・いじめを許さない学校作りを進め、生徒が発する小さなサインを見逃すことのない指導ができたか。	○学校いじめ防止基本方針を見直すことにより、いじめ等対策委員会を中心に、いじめのサインを多くの職員が共有する指導を徹底した。今後も継続指導が重要であるとする。 ○対応した生徒については、小さなサインにも見逃すことがないように出来た。	B
課外活動を充実するための取り組み	・多くの生徒が課外活動に積極的に参加し、活動することができたか。	○毎年1年生には必ず一つの班に加入するよう指導している。多くの生徒が充実した課外活動を行っている。	B
	・個々の生徒が目標とする成果をあげることができたか。	○各班とも前年より上位の成績を目指しているが、今年度も同様に各班とも努力した。	A
安全教育を推進するための取り組み	・安全教育に対する研修の機会を設け、それに参加することができたか。	○救急法講話、薬物乱用教室、性教育講話、こどな面接等をはじめ、職員の救急法講習など、あらゆる面での安全教育を考えた機会を設けることができた。	A
	・あらゆる場面で、生徒の安全を意識した教育活動を実践することができたか。	○強歩大会、クラスマッチをはじめとし、学校行事全般をとおし、生徒の安全を第1に考え、不測の事態を想定したうえで教育活動を実践することができた。 ○夏季の熱中症対策をはじめとして、実習時の安全に対する意識が高まっている。	A

